

書評「海からの贈物」リンドバーグ夫人（新潮文庫り - 2 - 1 ）， ひびき， No.2， 1991

大西洋横断飛行に最初に成功したリンドバーグ大佐の夫人が自分を見つめながら、心の内側を記したのが「海からの贈物」。30年以上も前にアメリカで出版されたものだが、日本にも熱烈な読者がたくさんいるようだ。

深い思索に基づいた言葉は現代に生きる私たちにも共通の問題解決の糸口となって語りかけてくる。簡潔に生活することや自分の内部に注意を向ける時間の必要性を説きながら、「何か創造的な活動を始めて自分を忘れることで、一番確実に自分を再び見出すことになる」とし、私たちが機械によって失ってしまった創造的な生き方を促している。

さらに夫人は、人間的な関係の充実について考察をし、「人間と人間の、人間としての関係」の成立には各自の生涯で重要な変化に伴う発達が不可欠だということを平易な文章で著している。

生活と深く結びついているこの本は、私たちの生活の中で「これでよいのだろうか」と疑問に思ったときには取り出して読み返し、そのもやもやを払拭するのに最適だ。小さな本だけれど中身のいっぱい詰まった、大切な本になること間違いなし……。